

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果より

調査の目的

各領域における児童の学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や、学習状況の改善などに役立てます。

調査の内容について

①教科に関する調査

A：主として「知識」に関する問題

- ・身につけておかなければ、あとの学年等の学習内容に影響を及ぼす内容。
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識や技能など。

B：主として「活用」に関する問題

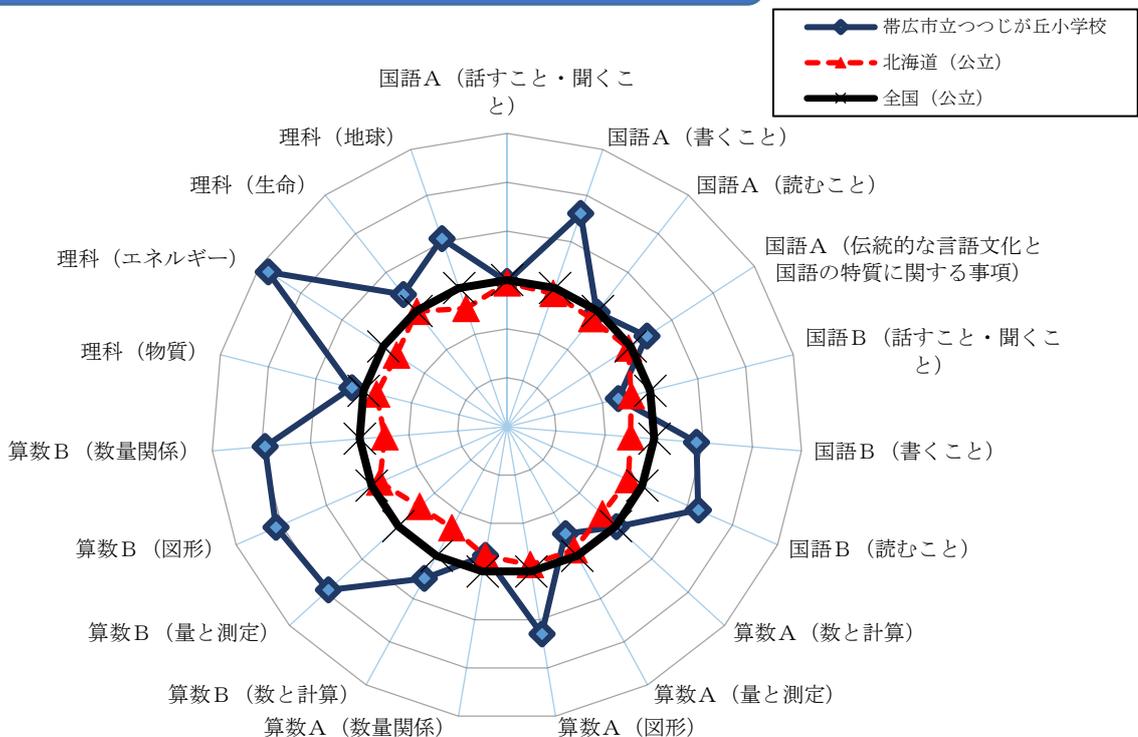
- ・知識、技能などを実生活の様々な場面に活用する力。
- ・様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価し改善する力。

※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に扱う。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習環境、生活の諸側面に関する調査。

つつじが丘小学校の調査結果（教科）について



〈国語A〉

全国・全道と比較して高い結果となりました。その中でも特に「書くこと」の正答率が高い結果となりました。「話すこと」「読むこと」についても他の領域よりは低いものの全道平均よりも高い結果が見られます。

◇「目的に応じて必要な情報を捉えること」や「文章全体の構成を考えること」、「漢字」などは高い正答率でした。日常の学習活動、家庭学習の成果が表れている判断します。

◆「登場人物の心情について情景描写を基に捉える」の正答率が低かったです。このような問題は読書量も影響します。家庭での読書量なども見直しをしてみましょう。

◆「主語と述語の関係」も正答率が芳しくありませんでした。日頃から文章で表現する際に、一文を端的に表現し、主述の関係を意識するようにすることが大切です。

〈国語B〉

全国・全道と比較して高い結果となりました。領域別では「話すこと・聞くこと」が全国・全道平均より下回った結果になっています。

◇「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えること」や「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」は高い正答率でした。

◆「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」の平均が全国・全道平均より下回っています。友だちの意見を相違点や類似点を整理しながら聞くことに関しては課題が見られます。

※国語A、Bともに「書くこと」の正答率が高い傾向が見られます。これは日頃から「書く」という活動に継続して取り組んできた成果と考えます。ノートに考えを書く際にも「使うキーワード」「字数」など条件を変えて取り組むことで、多面的に「書く」能力が高まってきていると判断しています。

〈算数A〉

全体の平均は、全道平均を上回ったものの全国平均よりはほんの少し下回りました。領域では「数と計算」「図形」が全国・全道よりも正答率が高い結果となりました。反面「量と測定」については課題が見られます。

◇「直径の長さや円周の長さの関係」については全道・全国と比較しても高い正解率でした。

◇数の関係を「数直線」に整理して表すことへの理解も高い結果が見られます。

◆「単位あたりの大きさを求める」「百分率を求める」など「数量関係」に関わる出題には、全国・全道よりも正答率が下回っています。「数直線」に関係を表現する力は育ってきているので、そこから正確に立式する過程に課題が見られます。

〈算数B〉

全国・全道と比較して高い結果となりました。選択式の解答方法の問題に対しては逆の結果となりましたが、領域ごとに見ても全国・全道よりも高い正答率となっています。

◇問題に設定された「角度」や「時間」について与えられた条件や情報を使って説明を記述することができています。

◆「数量」を関連付けて説明することに、課題が見られます。

※算数A、Bに共通して「図形」について正答率が高い傾向が見られます。日常から多くの解法を導き出すよう支援し、どの考え方が効果的か、児童に判断を求めてきた成果が表れてきていると判断しています。

〈理科〉

全国・全道と比較して高い結果となりました。中でも「エネルギー」の分野は、とても正答率が高い結果となりました。

◇「堆積」「乾電池と電流の関係」「比較実験の考え方」などについては、よく理解ができています。

◆「実験結果」を「分析」して「記述」することの正答率が低く、課題として考えられます。今後、実験結果から何が「わかり」、「一般化する」とどういうことなのか、まで連続して思考するよう取り組んでいくことが大切であると考えています。

児童質問紙の調査結果について

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝る」「毎日、同じくらいの時刻に起きる」は全国、全道に比べて高い結果となっており、家庭での生活リズムが確立されている児童が多いです。
- 「家で学校の授業の予習、復習をしている」「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」も結果が高く、家庭での学習習慣が身についている児童が多いです。
- 将来に対して何かしらのビジョンを持つ児童、地域の行事に積極的に関わり地域の中での成長を感じている児童が多いです。地域に生まれ、将来の夢を温かい環境で見つめることができる「つつじ小学校区」の「よさ」が感じられます。
- 家庭学習に取り組む時間、家庭で読書する時間が、全国に比べて低い結果となっています。学習習慣は身につけているので、今後は長く集中して取り組めるようにしていくことが課題です。
- 「朝食を毎日食べる」は顕著に低い結果です。生活リズムは確立されていますが、今一度「早寝、早起き、朝ごはん」など、足元を見つめ直す機会としたいです。

今年度の結果から

学校では

- ・学習規律の定着・・・今年度も機会があるごとに「学びの11カ条」を生かした学級づくりをするよう全校で確認をしてきています。学習へ向かう態度が安定してきているので、更に定着できるよう取組を進めていきます。
- ・読書の習慣化・・・朝読書に加え、教科の中でも本に触れる機会を増やしたり、読み聞かせを活用したり、工夫して指導を進めていきます。
- ・少人数指導の活用・・・算数の課題として考えられる領域については、少人数指導を有効に活用し、これまで以上に理解を高めていきます。

ご家庭では

- ・家庭学習の取組をより効果的に・・・学習時間を決め、家庭学習や宿題を継続的に行えるような習慣づくりにご協力ください。また取り組む時間も徐々に増えるような働きかけもお願いします。
- ・朝ご飯、家庭での読書など、もう1度、お子さんと見直しをして家族での読書時間を確保するなどのご協力をお願いします。
- ・学校との連携を・・・行事等の協力は、これまで通りお願いいたします。また、学校から発行されたプリントに目を通し、提出物の確認など前向きな協力をお願いします。